

## 令和7年度第2回あわらし郷土歴史資料館運営協議会会議録

日 時：令和8年2月27日（金）

午後1時30分から

場 所：金津本陣 IKOSSA 3階

市民文化研修センター研修室1

（次第）

1. 郷土歴史資料館長 あいさつ

2. 議題

（1）令和7年度郷土歴史資料館事業の報告について

（2）令和8年度郷土歴史資料館事業の計画について

（3）令和4年度～令和6年度年報について

3. その他

（出席委員）

水野 和雄      吉田 純一      長野 栄俊

宇都宮 高栄      能美 進      寺井 玲子

瀬戸 暢代

（欠席委員）

なし

（事務局）

郷土歴史資料館館長 九千房 英之      館長補佐 橋本 幸久

学芸員 吉田 紺碧

【郷土歴史資料館館長 あいさつ】

（1. 令和7年度郷土歴史資料館事業の報告について事務局より報告）

委 員：入館者数および地域別来館者数について、実際にはどれくらいの人を把握できているのか。もっと多くの方が来館しているはずなので、どうにか（入口横の調査ボードにおける）回答率をあげることはできないか。何かプレゼントをすとか。

委 員：他所の館を見ている、地元の人あまり回答せず、遠方の人が多く回答している

印象がある。

委員長：調査用シールが小さくて、貼りにくい。受付で聞くのはどうか。

委員：精度を上げるなら直接来館者に聞くのはどうか。先日訪れた他館でも、「支障なければ教えてください」とお金を払うところで尋ねられた。

事務局：ご意見を参考に、もう少し回答率があがるように工夫したい。

委員：入館者数はどのように数えているのか。小学生などの分類分けなどもどうしているのか。

事務局：受付の者が必ず1人いるようにしているので、その者が数えている。また、分類分けについては、その都度尋ねているわけではなく、目視で判断し記録している。

委員：協議会が始まる前に展示を見に行った際、目くばせ程度で済ませてしまったがそれもカウントされているのか。

事務局：カウントしている。

委員：地域別来館者数について、数える必要はあるのか。何かに活用しなければ意味がないのではないのか。それでも必要であれば、委員の方々がおっしゃるように受付などで聞いて回答率をあげれば良いと思う。

委員：駅に行くとも外国人を見ることがあるが、この資料館には外国人は来るのか。

事務局：ごくまれにある。

委員：英語を話せる職員はいるのか。

事務局：いない。来られた際は翻訳アプリで対応している。

委員：この資料館に来た際に外国人が見学していたが、本陣飾り物の前でわからなさそうにしていた。英語で解説を書くことはしないのか。

事務局：文字に起こすのは難しいが、翻訳アプリにかけてもわかるような解説に努めたい。

委員：外国人が来たら積極的に話しかけるようにすべき。

委員：一つ一つ英語で解説文を作るのではなく、せめて資料館の概要などを英語にしておく必要があるのではないのか。

事務局：来年度は資料館パンフレットを新たに作る予定なので、いただいた意見を落とし込めるようにしたい。

委員：常設展について、滝瓦や金津宿のジオラマなど旧金津町のものはあるが、旧芦原町のものも何か置いてほしい。

事務局：検討する。

委員：地域のことが学べる市民大学のようなものをやってほしい。坂本豊先生がおられた頃は、各地区の集会所を話して回っていた。

委員長：坂井市は「成人大学」なるものをやっているらしい。

委員：鯖江市では「高齢大学」を民間が市の支援を受けて行っている。越前市の場合は「大学講座」を行っている。

事務局：現在でも各地区から要望があれば出張講座を開催している。地区単位のように大き

いものもあれば、行政区のような小さいものもある。ただ、最近はそういった要望は減っている。

委員：去年のふるさとまつりでも、横山古墳群のことについて知りたがっている女性がおられた。そういった人向けに何かできないだろうか。

事務局：地域活用計画でも組み込んだが、公民館まつりなど何年かに1回は回るようにしたい。こういったことを繰り返すことで、地域の方々への啓蒙にもつながると考えている。

委員長：展示場を広げるべき。先ほどのことにも関連するが、旧芦原町には資料館がない。旧金津町と旧芦原町をこの資料館1つで説明するのであれば、今ある展示を少し減らし、旧芦原町の展示を増やす必要がある。5つある本陣飾り物も数を減らせばスペースが確保できるのではないかな。

事務局：この資料館に本陣飾り物があることで、常設されている各区の本陣にも来館者が向いてもらえると考えている。そのため数を減らすことは難しいが、他の方法で検討する。

委員：発掘調査展について、他の展示と比べて入館者数も多いことから、発掘に興味を持つ人が多いことを示しているといえる。実際の発掘現場や遺跡を見て回ることをしてみてもどうか。また、国の指定文化財だから仕方ないが、桑野遺跡ばかりという印象を受ける。他に弥生時代はどうだったのかなど順番にシリーズ化して展示していく必要があるのではないかな。

事務局：今後体験型のイベントも行っていく予定である。

委員：地域ごとに行うのではなく、「あわらの中世」「あわらの近世」など、この資料館に来て全体像がわかるようになればもっと良くなるのではないかな。

事務局：それは、講座のように話すのが良いのか、それとも展示で行うのが良いのか。

委員：展示でも良いと思う。とにかく桑野遺跡に突出しているように感じるので、全体像がわかるようになると良い。

事務局：今年度も常設展では縄文時代のみならず、各時代の資料レプリカの作成なども行っている。ここに来ればあわら市の歴史がわかるように、今後もアップデートしていく。また入館者数について、観覧料をもらっている展示以外のものに関しては、企画展示ゾーンに入っていない人もカウントに含まれている。そのため、入館者数に開きがある。

委員：今年度の第1回ふるさと講座について、あわら市の選挙日と被ってしまったため参加できなかった。開催日を変更することはできなかったのか。

事務局：講演の準備をしていただくために、あらかじめ講師の先生と日程調整を行っているため、変更することは難しい。インターネット配信によるアーカイブも残しているので、そちらをご覧ください。

## (2. 令和8年度郷土歴史資料館事業の計画について事務局より報告)

委員：テーマ展について、興福寺の話はされるのか。

事務局：今回は区有文書展なので、用水争論など文書に則って展示していくことになるかと

思う。

委員長：馬面さんの縄文ピアス焼きドーナツをもっとアピールしてほしい。

事務局：昨年度にドーナツに関する動画撮影は行った。ただし、その動画をどこで流すのかに手間取り、まだ流せていない状況である。予定では、湯のまち駅の芦湯のモニターと市役所の贅沢スペースで放映するつもりである。また、イベントの際には小さいモニターを使って流すことも検討したい。

委員長：アフレアでは流せないのか。

事務局：お金を払えば流せるとのことだったので、予算の都合上見送った。

委員：資料館で開催されていた講座のYouTube 配信を1度見たことがあるが、遠くから映しているだけであまり良くなかった。

事務局：手持ちの機材だけで行っているもので、他と比べると劣っていることは否めない。今後、配信機材に関する予算の獲得も視野に入れたい。

委員：特別展で図録を作成するとのことだが、担当者は図録を作るのは初めてか。

事務局：今回の担当者は初めて図録を作成する。

委員：出版する前にできるだけ多くの人に文章等を見てもらうことをお勧めする。小規模館だとそれが難しいことはわかるが、福井県内の館で出された図録でも、もう少し見てもらった方が良かったのにと感じることもある。どんな図録でも出版してしまうと図書館などでずっと残る。

事務局：作成時には、なるべく多くの人に目を通してもらうようにする。

委員：吉崎では資料を借りるにあたって難しいこともあるかと思うが大丈夫か。

事務局：所有者の方々には面識があるので、出品してもらえるように働きかけるつもりである。

委員：寄贈寄託について、最近は申し出の数はどうか。内訳なども聞きたい。

事務局：令和7年度は瓦展を行ったので、お借りした資料をそのまま寄贈してもらうことがしばしばあった。また、展示を見てくれた方が「うちにもこんな資料がある」と教えていただき、そのまま寄贈という形も多かった。他はほとんど民具関係だった。先日あった事例で、所有者の方ははじめ福井県立歴史博物館の方に問い合わせたそうだが、博物館側から地域に寄贈されることが好ましいとの回答があったために、数珠つなぎの形で当館に寄贈いただいたケースもあった。

委員：収蔵庫に余裕はあるのか。

事務局：ほとんどない。

委員：どの館でも抱えている問題だと思う。文化庁の方でも資料廃棄の問題が話題になったが、受け入れは館内だけで決めているのか。

事務局：基本的には館内で決めている。

委員：他の市では本庁に問うところもある。収蔵庫の余裕的にも、申し出を断る際には有効な場合がある。

委員：寄贈寄託資料についてももう少し具体的に書いてほしい。

事務局：個人情報に気を付けつつ検討する。

### (3. 令和4年～令和6年度年報について事務局より報告)

委員：講演会では音声記録を残しているか。

事務局：講師にもよるが、ほとんどはYouTube配信を行っており、講演後も残るようにしている。

委員：専門家に来てもらったからには、館として何か残しておく必要がある。来てもらうだけではもったいない。

委員：職員がどこに出向いたのかを記録しておく必要がある。また、職員が何を専門に研究しているのかも記載するべき。この年報には見られない。

事務局：検討する。

委員：他年度の年報はどうなっているか。

事務局：委員の皆様にはお配りしているが、一般には公開できていないので、HP上で公開できるようにしたい。

### (4. その他)

委員長：河戸の説明板は直さないのか。

事務局：検討する。

委員：寄贈品などはどこかに公開しているのか。

事務局：年報以外には公開していない。ただ、数年に1回は新寄贈品展として一般向けに公開する予定である。

委員：単に表で表すのではなく、年報の中に寄贈品の写真を入れていくのはどうか。

委員：写真がないと、後で見返したときに何のことかわからなくなる可能性がある。

委員：台帳はあるのか。

事務局：台帳は作成している。

委員：他館も年報を作成しているので、参考にすると良い。

委員：発掘調査の頁のように写真があると親しみを持ちやすい。文字だけだと冷たい感じがする。

事務局：検討する。

委員長：他にないか。なければ、事務局に進行をお返しする。

事務局：ないようなのでこれにて議事を終了する。